

なんたん

No. **38**

農業委員会だより

平成31年2月号



みんなでわくわく餅つき大会



農業委員会のうごき	2~3
地域農業を支える	4
まちかど通信	5
特集	6~7
なんたんあっちこっち 他	8

平成30年12月22日

園部町横田 餅つき大会



発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

■電話 0771-68-0067 ■E-mail co-nougyo@city.nantan.lg.jp

■FAX 0771-63-0654 ■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html>

農業委員会のうごき

岐阜県にて農業施策を学ぶ

1日目 たかやま 高山市



▲研修の様子(高山市)

高山市では、就農を核とした移住を促進するために「高山市就農移住ネットワーク会議」を平成21年に発足されています。活動内容は、就農支援メニューの構築と受け入れ態勢の整備を図り、就農後のフォローアップを充実させるとともに、都市部で開催する「農業人フェア」で高山市の農業を紹介するなど、新規就農者の確保と育成に取り組みられています。

平成22年から平成29年までの新規就農者(後継者含む)は194人(年平均で24人)で、それに加え、他府県からの移住就農者は23人であり、確実に成果が出ている印象を受けました。

■就農メニュー

就農体感ツアー 短期研修	農業者との交流や農業を紹介する機会の提供 適性等を判断できる機会の提供
長期研修	就農を決断された方に農業者から実践的に学べる機会の提供

■営農開始時の支援

- ・ 機械や施設への支援
(導入経費に助成)
- ・ 農地への支援
(借地農地の賃借料を助成)

2日目 くじょう 和良町宮地集落(郡上市)



▲現地にて説明を受ける委員

和良町宮地集落では、「地域ぐるみの鳥獣対策」について資料説明に加え、実際に現地まで足を運んで取り組みについて視察しました。農家だけでなく、集落の全住民参加で、鳥獣被害を防ぐ活動をされています。実践されている内容は、「①皆で、②囲って、③除いて、④追い切って、⑤捕って、⑥食べて、⑦里人(さともり)」で※別表参照の七策で鳥獣対策に取り組みられています。生活環境を整備するための活動を無理なく楽しく続けることでより一層集落の絆が深まり、農業振興にもつながるのだと思いました。

(文書：東野裕和 委員)

■七策

①皆で	・ 集落の住民が主体で動き、総参加型での取組。
②囲って	・ 鳥獣の進入防止柵の設置。
③除いて	・ 鳥獣たちの餌場を取り除いて定住化を阻止。
④追い切って	・ 鳥獣の人馴れを防止。追い払いを集団で実践。
⑤捕って	・ 有害鳥獣捕獲の推進。捕獲従事者の育成・確保。
⑥食べて	・ 食肉処理業、販売業の許可取得施設を設置し、ジビエ料理として販売。
⑦里人で	・ 集落で計画的実践活動ならびに、現地視察研修会を開催。集落自治会リーダーの育成・確保。

農業者年金加入推進活動について

農業者年金制度の普及・定着ならびに制度理解を深めるため、京都府農業会議から講師を招き農業者年金研修会を11月5日に実施しました。

1970年（昭和45年）にサラリーマンと農業者との年金制度の格差を解消することを目的に、政策年金として農業者年金制度が創設されました。

積み立て方式の確定拠出型で少子高齢化時代にも安心できる制度で、保険料の全額社会保険料控除といった優遇制度もあり、メリットの大きい制度だと思われます。

新規加入者へのアンケートによると農業者年金を知らなかったという方が約5割で、若い人ほどその割合は高いということです。近年、南丹市では新規就農者も増えており、農業者年金の加入を推進することが必要だと感じました。（文書：田村好司 委員）



研修の様子

長い人生、準備は今から。
将来への備えは、家族ひとりひとりに対して。



農業者年金へ加入しましょう

★農業者年金は、国民年金（基礎年金）に上乗せした任意加入の公的年金制度

- ①積立方式（確定拠出型）で少子高齢化時代に強い年金です！
- ②生活設計や経営状況に合わせて（2万円から6万7千円まで千円単位で）保険料設定が可能です。

★加入資格 ・国民年金の第1号被保険者。※（保険料の免除者は除く） ・年間60日以上農業従事者。
・60歳未満の方。

申込・お問合せ／南丹市農業委員会事務局 電話0771-68-0067

農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書への回答

平成30年10月24日に提出した「農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」に対して、11月8日に南丹市より回答がありました。なお、全文は南丹市農業委員会のホームページにて公開しています。

■南丹市農業委員会 HP

URL：http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou/ikensho_kengi.html



を購読しませんか。

農業経営と暮らしに役立つ週刊の農業総合専門誌です。
農業者の視点で、さまざまな情報をお届けします。

- ・週刊 月4回金曜日発行
- ・月額700円（税込）

申込：南丹市農業委員会事務局 電話0771-68-0067

地域農業を支える

あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、力強く活動する
団体・個人を紹介します。

おおかわち 大河内生産組合 (園部町大河内)



▲生産組合のみなさん

大河内生産組合は、平成19年に組合員42名でスタートしました。園部町大河内地区は、京都府立るり溪自然公園のふもとにある中山間地では農業の担い手が不足する中、国の補助事業である中山間地域等直接支払制度を活用し、農地を守るために水稲の受託を目的として設立されました。

現在では役員が中心となり、田植え約5ヘクタール、稲刈り約12ヘクタールを担う組合として活動し



▲生産した野菜を販売しています

ています。また、平成22年より都市部との交流を目的とした黒大豆の植え付け・収穫体験を行っており、毎年70〜80名の方が参加しています。

生産した野菜や米は、平成19年に開設された「るり溪の里農林産物直売所」で6月〜12月の毎週日曜日に販売しています。また米は、都市部の消費者にも販売しています。

今後は継続して農地保全できるように、設備の充実もはかりながら地域の活性化に努力していきたいと考えています。

(文書：野々口善文さん
取材：平野清久 委員)

直売所
(代)0771-65-0700



- 保有機械●
 - トラクター 2台
 - 田植え機 2台
 - コンバイン 2台
- 保有施設●
 - ライスセンター
 - 育苗用ビニールハウス

築150年
古民家料理店

「ゆるり」

もりさと
(美山町盛郷)

電話：0771-76-0741



▲外装

築150年のかやぶき民家の料理店『ゆるり』は、若狭の海から都の食文化を支えた「西の鯖街道」(国道162号線)に面した美山北部の盛郷にあります。16年前に両親が料理店を開業しましたが、6年程前から祖母の介護が必要になったこともあり、京都市内から家族共々田舎に戻り店を継ぎました。その際に、古民家ならではの囲炉裏などを残しながらもキッチンや店内のリノベーションを行いました。

春は山菜、初夏からは囲炉裏で焼いた美山天然鮎、秋には美山産松茸など地元の食材や京地鶏をメインにコース料理として昼または夜の食事を予約制で提供しています。

昨年2月からは敷地内でジビエの解体と精肉が出来るようになり、猪や鹿のジビエ料理も召し上がっていただけます。店の名前のように「ゆるり」とした時間を過ごしながらか四季折々の料理を楽しむことができます。今年の春からは、宿泊もできるようになりまして腰を据えてお酒を楽しんで頂けます。近くにお越しの節は是非お立ち寄りください。お待ちしております。



▲ゆったりとした店内

(文書：梅棹レオさん 取材：谷本みどり 委員)

～料理人が野菜を栽培～

あだち さんじ
足立 三治さん
(日吉町上胡麻)



▲足立三治さんと
妻の和子さん



自慢の畑です▶

足立三治さんは大阪の食品調理会社で調理の仕事をしていました。調理に適した野菜や果物を産地まで足を運び生産者と直接やりとりするなど、栽培過程に重点を置き、料理人として常に安全、安心、お客様に喜んで頂けるように研究を重ねてこられました。

今は、料理人として長年にわたり培ってきた経験を生かして、自宅の庭で野菜作りをされています。種類は白菜、カブ、キャベツ、芽を切ったばかりのエンドウなどです。また隣接地にはサクランボや柿、桃、いちじくなどの果樹も植えてあります。水の確保も雨水タンクを設置するなど、工夫されています。

時には地元のイベントに招かれて栽培の工夫や、料理のコツを教えたり、さらには料理を提供されています。また、手入れの行き届いた自宅の庭にテーブルを置き、来客者を手厚くもてなし、地域のオアシスとして住民と一層の絆を結んでいます。

(取材：谷口定己 委員)

特集



里の文化と暮らし

美山町へ移住し、九条ネギを栽培

美山町宮脇

橘 たちばな

英樹さん ひでき
敬子さん のりこ



由良川と原川が合流する美山町宮脇という地域に住んでおり、現在の耕作地は、田を15アール、畑が約70アールで畑では九条ネギを栽培しています。

大学卒業後、オーガニックのカフェなど、野菜や農業にかかわる機会があり、農業に関心があったことや、自然が好きなので農業で成功できればと考え、農業を一から勉強するためと京野菜栽培への憧れもあり、東京から京都へ引っ越し、農林水産業ジョブカフェで紹介していただいた「こと京都株」に勤めながら栽培ノウハウを習得しました。

当初は京都府宇治市に住んでいましたが、「こと京都株」のほ場が美山町にあり、出向いているうちに美山町の自然豊かなところに惹かれ、宮脇地区への引っ越しを決断しました。宮脇の皆さんはとても親切で、住む場所や農地の紹介までしていただき、農業を始める上で非常に助けとなりました。さらには、移住してから妻と出逢えたことも大変心強かったです。

農業を始めたばかりでまだまだ勉強中の身ではありますが、農業だけで生計を立てることが理想です。

美山町の冬は雪が積もりますので、その中でも何か農作物が育てられないか思索をしています。将来的には、農業の雇用者を少しでも増やし、私を快く受け入れて頂いた地域の皆様に恩返しをしていきたいと考えています。

(文書：橘 英樹さん)

取材：倉内 裕 委員



九条ネギの畑

お詫びと訂正

前号 (No.37) 2 ページにて、大西営農組合の代表理事名の記載誤りがございました。お詫びして、訂正いたします。(誤) 小島正博さん → (正) 小島政博さん

女性農業者の活躍!

直売所に野菜を届けて30年

こしら としえ
小寺 敏江さん (美山町大野)



美山町大野にある「大野屋」の直売所でカゴいっぱい盛ったカブや大根を届けに来られた小寺敏江さんにお話を伺いました。

小寺さんは大野ダム公園でさくら祭が開催されるようになって間もないころから、地域の人たちが始めた野菜市の手伝いで野菜作りに参加されたことをきっかけに、地域の女性たちで立ち上げた「大野農産加工グループ」に参加しました。毎週水曜日に大野屋の前で「水曜日」を開いて野菜や加工食品を販売したり、また収益でグループの食事を企画するなど、楽しみながら活動をされてきました。

活動の功績としては、グループで開発した和菓子の「黄金いも」が美山ものづくり委員会で最優秀賞を受賞したことであり、今も人気商品です。

グループでの活動は現在、後継者不足で休止状態であるとのことですが、小寺さんは今もなお直売所のある「大野屋」に毎朝野菜を届けられており、このような活動が地域を支えているということを実感しました。

(取材：梅津義明 委員)



▲大野屋に届けられたカブ

～ 錦秋の大野ダムもみじ祭手作り品フェア～

大野ダムもみじ祭が11月17・18日の2日間開催され、多くの観光客や地域の人たちが楽しんでいました。

会場には地域の祭りを盛り上げるために地元の方たちの手作り品が多数出店されていたので、その中から、私のおすすめ品を紹介します!

(取材：梅津義明 委員)



美山の卵と牛乳を使用したシフォンケーキ。あっさりしていて食べやすく、ふわふわな食感でした。

シフォンケーキとよもぎもちは、毎年大野ダムで行われている「さくら祭」と「もみじ祭」での限定商品となっています。お越しいただいた際には、是非ともご賞味ください。



美山の小豆を使用したよもぎもち。よもぎの風味がしっかりしています。上記で登場した小寺敏江さんが作っています。

なんたん

あっちこっち

とにかく広い南丹市。

南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白く、楽しい、また興味深い取り組みがされています。

そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介します。



かみよしたいこ 神吉太鼓(八木町神吉)

八木町神吉には「神吉太鼓」というグループがあります。神吉の幼児から大人まで23名の方が所属しており、毎週金曜日の夜に練習しています。

元々、神吉小学校の授業の中に太鼓の授業があり、児童はみんな取り組んでいました。しかし、閉校に伴い、太鼓の使い道がなくなってしまいました。そこで、地域の人たちが使えないかということで活動が始まりました。

30年度は、11月11日に開催された「神吉公民館まつり」にて、地域の方たちの前で披露されました。太鼓の音色は神吉に響き渡り、楽しい時間を過ごすことができました。

災害被害が甚大であったため、地域行事が自粛されていますが、このまつりをきっかけに地域が活気づきました。これから、あたたかく地元愛あふれる活動が続くことを願っています。



▲迫力ある太鼓の演奏

(取材：川勝芳明 委員)

委員ぶらり旅

旅人：梅津義明 委員

京都府立北桑田高等学校の イチヨウ並木

京都市右京区京北町にある京都府立北桑田高等学校の正門には、校舎までの道の両脇に古くからイチヨウの木が植えられていて大木になっています。夏には鮮やかな緑色に染まり、秋には黄金色に輝き、落葉が黄色の絨毯(じゅうたん)のように広がっています。この道は多くの生徒たちが楽しく会話しながら歩く道であり、卒業生にとっては思い出の道でもあるかと思っています。

正門前の広い道沿いには府立ゼミナールハウスや京北病院といった近代的な建物がある一方、近くを通る国道162号線には商店や飲食店が昔から建ち並んでいる地域です。

そのような地域にあるこのイチヨウ並木は「悠久の道」と地域では呼ばれ、親しまれています。

何気ない日常の風景にふと立ち止まり、カメラのシャッターを切りました。



イチヨウ並木

編集後記

園部町横田区の公民館で、お話し会と餅つき大会が開催されました。この大会は、毎年、任意団体「横田夢倶楽部」が子どもたちの楽しい思い出作りになればと、開催されています。「ぜんざい」や「きな粉餅」おいしかったかな。(取材：田中靖二 委員)

地域の食と農業の情報紙「なんたん」

自慢の農作物・地域の積極的な取り組み・地元野菜の食べられるお店など、すてきな情報をお待ちしております。
農業委員会事務局 電話：0771-68-0067

藤原忠司	倉本みどり	梅内義裕	谷口定己	岩城久雄	宇野十三治	松本吉弘	福嶋重樹	廣瀬芳仁	川勝正延	吉見有正	寺尾義二	田中靖和	東野裕二	平村好司	平野清久
------	-------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

◆広報委員会

